
日本民間放送連盟賞 CM部門で最優秀賞を獲得！

本日開催された民放連理事会で「平成22年日本民間放送連盟賞 CM部門 テレビCM」の審査結果が発表され、メ～テレ制作の自社媒体PRスポット「テレビの前の人」(120秒)が最優秀賞に選ばれました。

同部門には全国の民放14社から27作品の応募があり、この中から優秀賞6作品と最優秀賞1作品が選ばれたものです。

メ～テレが連盟賞のCM部門で最優秀賞を獲得するのは、1983年の統一キャンペーンテレビスポット「オークビレッジ編」以来の快挙です。また部門最優秀賞は、1996年の番組部門テレビドラマ「劇的紀行 深夜特急96熱風アジア編」以来のことです。

このCMは、テレビを見ている「テレビの前の人」に焦点を当て、番組によって移り変わるさまざまな表情をとらえたものです。

[*こちらをクリックすると動画をご覧いただけます。](#)

【制作のねらい】

野球中継を見ている人の多くが、「俺の采配なら毎年日本一だ！」と思って見えています。他にも、ニュースを見ながら総理大臣に説教したり、大人がアニメで涙を流したり、うちの近所が映るとちょっとドキドキしたり・・・そんな、誰もが「あるある！」と共感できるテレビの前のひとコマを表現することで、テレビを見ることの楽しさ、そして何よりも「テレビって、やっぱり身近にあるんだ」ということを再認識してもらいたいと企画しました。

「最近テレビを見なくなった」「面白くない」「元気がない」なんて声を耳にしますが、テレビはまだまだ最も手軽で、身近で、娯楽の王様なんだ！というテレビ局なりの反論です。

企画 平松陽介(メ～テレ) クリエイティブディレクター 大沼 隆(電通中部支社)
プランナー 森 俊博(電通中部支社) プロデューサー 青島 悟(エジソンライトハウス)

【審査講評】

アニメを見て泣いてしまう中年男性、料理番組を見て「お腹すいたー」とつぶやく女性など、テレビの前の視聴者の姿を映し出すことにより、テレビを見ることの楽しさ、テレビが身近な存在であることを再認識させる演出が卓越したCM。

<問い合わせ先> メ～テレ(名古屋テレビ放送)
【広報部】 浅沼 052-322-7107